

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(佐賀)

認知症で家族の記憶をすっかりなくしたマユの祖母(バーバ・はなちゃん)は、老人ホームに入ってから食事をほとんど受け付けなくなっていました。ある日、母とともに祖母のもとを訪れたマユは、祖母が窓の外の富士山を指さしたのを見て、以前、家族と一緒に食べたかき氷を祖母が食べたがっているのだと思い、かき氷を買いに急いで自転車を走らせた。

夏休みで連休のせい、車はかなり渋滞している。私は、臨機応変に歩道と車道を交互に走った。ぐんぐんと富士山が迫ってくる。急がなきゃ、急がなきゃ、気がつく、猛スピードで走っていた。体が、風の一部分になってしまっただった。

何かアクシデントが起きても不思議じゃなかったけど、何も起きずにかき氷の店まで辿り着く。でも、やっぱりこもも、ものすごい人だかりだ。店の前に、長い行列ができてきている。どうしたら良いのだろう。このまま待っていたら、夜になってしまふかもしれない。私は、一心に店の奥へと突き進んだ。

この店では、天然氷というのを使っている。冬、プールのような所に水を貯めて自然の力で凍らせ、それを切り出して保管し、かき氷にするのだ。私は今でも普通の氷との違いがよくわからないけれど、パパはその氷の味をえらく褒めていた。この氷でウイスキーの水割り作ったら、うまいだろうなあ、とか何とか言っていた。でも、今はそんな感傷に浸っている場合ではない。一秒でも早くバーバにかき氷を届けなければ……。

店の庭では、みんなうれしそうにかき氷を頬張っている。あの時も向日葵が満開だった。確かに数年前、私達はこのままいつまでも同じメンバーにいることに、何の疑いももたず、ここにかき氷を口に含んだのだ。「すみません」

「ただいま。バーバ、富士山、持ってきたよ」

ホームに戻ると、またカーテンが閉じていて、部屋全体が鈍色に見える。クローゼットボックスから、急いでかき氷を取り出した。もし全部溶けてしまっていたらと想像すると胸が潰れそうだったけれど、かき氷は、少し縮んだように見えるだけで、きちんと富士山の形を留めている。私は、ママにかき氷を手渡した。「はーなちゃん、あーん」

ママはそう言いながら、バーバの口元に木製のスプーンを差し出す。バーバのくちびるは、うっすらと開いている。けれど、スプーンが滑り込めるほどの隙間はない。「マユが、一人で買いに行ってくれたんですよ」

ママの瞳から、つるんと一粒の涙が落ちる。やがてバーバは、何かを言いかけるように上下のくちびるを広げると、スプーンを受け入れた。「おいしいでしょう?」

ママの声が湿っている。二度、三度と、バーバはスプーンの上のかき氷を吸い込んだ。そのたびに、目を閉じてうっとりとした表情を浮かべる。

私は確信する。バーバは今、数年前の夏の日、家族で行ったかき氷店のあの庭に帰っている。ごくり、と喉が鳴って、富士山の一部分が、バーバの体の奥に染み込んでいく。私は窓辺に移動して、カーテンをかきわけ外を見た。富士山が、オレンジ色に光っている。すると、マユ、とママが呼ぶ。

振り向くと、ほら、バーバがマユにも食べさせたいって、と、私を手招いている。驚いたことに、バーバは自分で木のスプーンを持っている。近づくと、私の口にかき氷を含ませてくれた。同じように、ママの口にもかき氷を含ませてくれる。ママは明らかに、私よりも年下の少女の顔に戻っていた。

「おいしいねえ」

舌の上のかき氷は、まるで冷たい綿のようだ。さーっと溶けて、消えてなくなる。体のすみずみにまで、爽やかな風が吹き抜ける。「眠くなってきちゃった」

問題 出題

●一番身近な人間関係である「家族」と、さまざまな年齢や立場の人々で構成される「社会」では、どちらも人と人の関わり合いがテーマの文章が多い。●人間関係を押さえて、言動や情景描写からそれぞれの人物の心情を捉えよう。

1 勇気を振り絞り、窓の所で四角い氷を機械で削っているおじさんに声をかけた。でも、周りが騒がしくて聞こえなかったのか、無視されてしまう。「すみません!」

二度目は、声を強くした。ようやくおじさんが、できたての氷の山に透明なシロップをかけながら私の方を見てくれる。けれど、その先の言葉が繋がらない。私はみるみる泣きたくなった。ただ、バーバにかき氷を食べさせたいだけなのに。どうしてこんなに悲しくなってしまうのだろう。けれど、早く言え、と何が私の背中を強い力で前に押ししてくれたのだ。

「バーバが、いえ祖母が、もうすぐ死にそうなんです。それで最後に、ここのかき氷を食べたいって」

ぐっとくちびるを噛みしめ、涙の落下を食い止める。一瞬、音という音が世界から消えた。どうしてそんなことを口走ったのか、自分でもよくわからなかった。ママとの会話でも、ずっと気をつけて避けて通ってきた、一文字の単語。それが口をついて出たことに、自分でも驚いてしまう。「ちよっと待ってて」

子供の言葉など相手にしてくれないかと懸念していたのに、おじさんはぶっさらばうにそう言うと、またくるくると機械のレバーを回し始めた。目の前のカップに、白い氷の山ができていく。私は、ポケットから小銭を取り出した。かき氷一杯は買える。おじさんは、氷の小山の上から、透明なシロップをうやうやしくかけた。それを、クローゼットボックスの中に入れてくれる。「ありがとうございます!」

お金を払い、深々と頭を下げて、その場を立ち去った。帰り道は、ますますスピードを上げて自転車を走らせる。クローゼットボックスの中の小さな富士山が溶け出す前に、どうしてもバーバに届けなくてはならない。

そのままバーバのそばにいたら、泣いてしまっただったのだ。簡易ソファへ移動した。ママの前で泣くなんて、かっこ悪い。「軽い熱中症かもしれないから、そこで少し休みなさい」

ママが、威厳たつぷりに命令する。バーバとママ、二人の世界を邪魔しないよう、横になってそっとまぶたを閉じる。再び目を開けた時、部屋の中があまりに静かで、胸がどきゅんと真つ二つに折れそうになった。天井が、虹色に輝いている。もしかして……。私は起き上がった。一歩ずつベッドに近づいた。バーバの隣に、目をつぶったママがいる。私は、バーバの鼻先に手のひらを翳した。よかった。バーバは、生きている。くちびるの端が光っていたので、私はそこに自分の右手の人差し指を当てた。

そのまま口に含むと、甘い味がする。でも、さっきのかき氷のシロップの甘さじゃない。もつともつと、複雑に絡み合うような味だ。やっぱり、バーバは今この瞬間も、甘く発酵し続けているのだ。

(注) 餡色=茶がかった黄色。(小川糸「バーバのかき氷」より)

1 線①「あの時も向日葵が満開だった。」とありますが、ここでのマユについての説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。ア 祖母の病気が悪化していくにつれて、家族がばらばらになってしまった現状を再認識して落胆している。

イ 家族がそろっていることを当然のように思っていた数年前を思い出し、状況の変化に思いをはせている。
ウ 水にまつわる父の発言の記憶がよみがえり、今でもその時の父の言葉には納得がいかなさ思っている。
エ 険悪な関係だった家族の思い出と、現在の自分を取り巻く辛い状況を重ねて、悲しみがこみあげている。

(2) 線②「一瞬、音という音が世界から消えた。」とありますが、このときのマユの心情として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今まで触れないようにしてきた祖母の死を強く意識した言葉が、思わずこぼれてしまったことに戸惑いと驚きを感じている。

イ 祖母が死にそうであるという自らの言葉とはうらはらに、涙を押しとどめてしまった自分の冷たさに気づき、困惑している。

ウ かき氷の機械を回すおじさんの手が突然止まり、周囲が急に静かになったことで我に返って、穏やかな気持ちになっている。

エ 早く祖母のもとに戻りたいのに、自分が懸命に伝えようとしている言葉がおじさんに無視され、絶望的な気分になっている。



(3) 線③「そのたびに、目を閉じてうっとりとした表情を浮かべる。」とありますが、このときの祖母の様子を見たマユについての説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア うれしそうな祖母の様子から、悪化の一途をたどっていた祖母の病状もこれから必ず快復に向かうはずだと思っている。

イ ほんやりとした祖母の表情から、祖母は過去の思い出の世界にとらわれたままの状態で生きていくのだろうと落胆している。

ウ 記憶を取り戻したように見える祖母の様子から、退院後にはかつて家族で行ったかき氷店へ皆で行こうと心を決めている。

エ 満ち足りた祖母の表情から、家族そろってかき氷を食べた幸福な場面を祖母が思い出しているに違いないと固く信じている。



(4) 線④「胸がどきゅんと真つ二つに折れそうになった」とありますが、このときのマユの心情を三十字以内で書きなさい。

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

(5) 線⑤「そのまま口に含むと、甘い味がする。」とありますが、この甘い味からマユはどのようなことを感じ取っていますか。その説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖母の失われた記憶は一時的に回復したが、やはり身体の衰えは確実に進んでおり、祖母の死期も間近に迫っているということ。

イ かき氷に込められた幸せな家族の思い出を祖母と共有できたことで、祖母が今もなお自分を大切に思ってくれているということ。

ウ 記憶を失い体が衰えている祖母はただ死を待つのではなく、今も確かに生きていて、生命の輝きを失っていないのだということ。

エ 人は周囲の人々の支えがあつてこそ生きられるように、祖母も身近な家族の愛情によって少しずつ快復しているのだということ。



家族関係を題材とした文章では、家族の病氣、転校などの悩み、兄弟間のいさかいなど、家族内の問題や気持ちのすれ違いを描いたもの、あるいは、それらの問題を経て家族のきずなが深まる様子を描いたものが多い。

このよつな文章では、まず家族構成を押さえて、家庭の事情や、家族内の人間関係をつかむことが必要になる。場面や状況を理解したら、登場人物の言動や情景描写に着目して、心情を読み取る。

2 次の文章は、農作業をしていた兼三さんが田んぼで倒れて病院に運ばれた後、中学三年生のおれ(直)が、駆けつけた健さんとともに、田んぼに横倒しになった耕うん機を起そうとしている場面が続くものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

耕うん機は重い車体を揺らしたが、かなり深く埋まっているために、起きあがろうとしない。何度やってもだめだった。

「くそっ。」

健さんがやけになったように、声を荒らげた。

「いまだき、耕うん機なんかで走りまわってるから、ぶっ倒れるんだよっ。」

田んぼの中に横倒しになってしまった耕うん機のことを言っているのか、仕事の中に倒れた兼三さんのことを言っているのか、よくわからなかったけど、健さんの声が泣いているようにおれは聞きかえすこともできなかった。兼三さんの容態のことがずっと気になっていた。

「どした。」

ふいに、暗闇の向こうに声があった。ゆったりとした声で敬二郎さだとわかった。山の畑の帰りらしかった。

事情を話すと、敬二郎さは棒きれの杖をつきながらやってきた。

「そうか…。心配だの…。」

敬二郎さは、ゆっくりうなずいた。

「この年寄りがお助けになるかどうか、わからんけんぞ。」

ぼそぼそ言いながら、敬二郎さは杖とかついでいた袋を畦にゆくり置いた。袋の中から、たばねられたロープを取り出した。そろりと田んぼに入ると、水音も立てることなく足を進めて、おれたちのところへやってきた。

敬二郎さは、ほぐしたロープを慣れた手つきで耕うん機の手柄からめてしぼり、その二つの端をおれと健さんにわたした。そつちとあつちだと、おれたちの立つ位置を指示して、自分はハンドルに軽く手をそえた。

「そうれ、引け…。」

静かな調子で、言った。

おれはロープを背中からまわしてにぎりしめ、力をこめて足を踏んばった。これを起せれば、兼三さんは助かる。かつてにそう決めて、力を振りしぼった。

しかし、力をこめると足が泥の中にずぶずぶ埋まった。足元がおぼつかなくて、転びそうになる。思うように力が出せない。田んぼに半分埋まっている耕うん機は、なかなか立ちあがろうとしない。

② (兼三さん、がんばってっ)

おれは、心の中で叫んだ。

「くっそおっ。」

健さんのうなり声が聞こえる。

おれは田んぼに倒れるくらい前のめりになって、ロープに体重をのせた。健さんも少し向こうで、必死に引っぱっている。

おれはロープを引きながら、目の端に後ろの耕うん機を見た。

敬二郎さがハンドルをにぎり、ロープの引き具合に合わせて、耕うん機の手柄の向きをととのえている。

耕うん機はじわりじわりと体勢を立てなおしてきた。突きだした片側の車輪が少しずつ水面に近づいてくる。そして、もう一つ力をこめた時、ばしゃんと田んぼの泥をはねて、両輪で立ちなおった。

敬二郎さは表情も変えずにそう言った。耕うん機からロープをはずしてたくり寄せると、ぬれたロープから水がしたたった。敬二郎さは一歩ずつ水面に足を差すような慣れた足はこびで、泥水をはねることもなく、畦に戻った。

「どこのうちもトラクターに替えた。」

畦の上で、敬二郎さがロープをたばねながら、ふと静かにつぶやいた。

「いまだき耕うん機で田んぼ仕事やるとるもんは、村の中でもほかにおらん。」

敬二郎さはロープを袋に入れると、ゆくり背中にかつき、息を吐くように

して言った。
 「ち、おれの声、聞こえたかな。」と、健さんはきまり悪そうに舌を出して、こっそりおれに目くばせした。
 ③「けんど、兼三も、直のおやじの大志郎も、トラクターでなく耕うん機にこだわった。」

ふいに、敬二郎が言った。「なんてか、わかるか？」と、闇の向こうで敬二郎のぎよろっとした眼が、おれたちを見た。
 「え？」

おれは、きよんとした。何を言おうとしているのかわからず、敬二郎を見た。
 健さんも、首をかしげた。

「山の小さい田んぼを荒らしたくないからだ。」
 敬二郎は、言った。

おれも健さんもだまって、敬二郎を見つめた。
 「山の小さい田んぼなんぞ、作ったって一文にもならん。」

「……」

「けんど、田んぼを荒らせば、そこは山に戻る。いっぱい荒らせば、それだけ山が里へおりてくる。雑木も、やぶも、獣もおりてくる。先祖が年月かけて拓いてきた村が、あつという間に山に帰っていく。ここで生活していくために、山の田んぼを簡単に荒らすわけにいかん。」

敬二郎は、闇のどこかをじっくり見すえるようにして、一言一言かみしめるように語った。

「山の小さい田んぼにトラクターは入れん。耕うん機でないと、ここらの棚田は耕作できん。」

敬二郎は、静かにつづけた。「あいつらは、耕うん機買って、人の荒らした小さい田んぼまで耕した。村を守るちゆうことを本気で考えてきた。それだけこの村を愛しとった。」

敬二郎は、暗闇の田んぼにひっそりと居すわっている耕うん機を、目を細

めて見つめた。
 「兼三にや、まだ生きとつてもらわらん……。」
 ひとりごとのようにぼそつとつぶやくと、敬二郎は棒きれをついて、農道を下っていった。
 「やるな、敬二郎さ。」
 闇の中に消えていく敬二郎の背中を見て、健さんが言った。
 「九十歳で、ああしぶくはできん。」
 「え、九十……。」
 おれは、驚いた。敬二郎は、毎日つかんたいらまで歩いて登ってきているのだ。

「この村には、しぶいおとながいっぱいいる。かなわん……。」
 健さんは、真顔でつぶやいた。
 おれは黙って、うなずいた。

④おれは黙って、うなずいた。

※一部省略等があります。
 (注) 耕うん機＝田畑を耕す機械。 敬二郎＝敬二郎さん。
 畦＝田と田の間に土を盛り上げて作った境界。
 トラクター＝農耕機械などを引っ張る作業用自動車。
 つかんたいら＝地名。
 (横沢彰「スウィング」より)

(1) 線①「おれは聞きかえすこともできなかった」とありますが、なぜ直は健さんに聞きかえすことができなかつたのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 泣くところを見たこともない健さんが泣いているということはよほど悲しいことなのだと思う、今はそつとしておきたかったから。
 イ 感情を高ぶらせている今の健さんに向かって何に對して怒っているのかと聞きかえしても、返事が返ってくるとは思えなかつたから。

(4) 文章中には、兼三をいたわる敬二郎の気持ちが表情として表れている一文があります。その一文を文章中から抜き出し、初めの十字を書きなさい。

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

(5) 線④「おれは黙って、うなずいた。」とありますが、このときの直の気持ちはどのようなものだと考えられますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 兼三さんがあれほどまでに耕うん機にこだわった理由を教えられ、大人になることは己の信念を守り続けることなのだ自分に言い聞かせている。
 イ 兼三さんの仕事を軽視してきた自分たちを反省し、裕福でなくても自然と共生するこの山村の暮らしこそ真の豊かさがあるのだと実感している。
 ウ 兼三さんたち大人が先祖から受け継いできた村を必死で守ってきたということを知って、そんな大人たちに尊敬の念を表す健さんに共感している。
 エ 兼三さんこそが頼りだという敬二郎の切実な思いを聞き、兼三さんが退院するまでは健さんと二人でこの村を守っていこうと決意を固めている。

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

(3) 線③「けんど、兼三も……耕うん機にこだわった……。」とありますが、兼三や大志郎が、トラクターでなく耕うん機にこだわったのはどうしてですか。その理由を、「耕うん機」「トラクター」という二つの言葉を使って、「……から。」に続くように、五十文字以内で書きなさい。

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

から。



成長にとまどない、家庭や学校という普段の生活圏を超えて、より広い社会の人々と接する機会が増える。地域活動やボランティア活動に参加すれば、住む場所(出身地)や世代の異なる人と出会う機会が生まれ、顔見知りだった近所の大人から対等な存在として扱われるようになったりする。そうした人々との交流や、交流を通して気づいたことが描かれた文章が話題される。

社会での出会いや交流では、初対面の人との交流で心が動かされたり、立場の異なる人から思いもよらぬ考え方や価値観を教えられたりすることも多い。主人公の心情を、言動や情景描写にも注目して捉えよう。

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

◆ 次の文章は「伊曾保物語」の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ある川の辺に、蟻、遊ぶ事ありけり。俄に水かさ増さりきて、かの蟻

を誘ひ流るる。浮きぬ沈みぬする所に、鳩、木末より、これを見て、哀れなる有様かなと、木末を少し食い切りて、河の中に落しければ、蟻、

これに乗つて、渚に上がりぬ。かかりける所に、ある人、竿の先に鳥糞を付けて、鳩を刺さんとす。蟻、心に思ふやう、只今の恩を送らうものを

をと思ひ、かの人の足に、しつかと食い付きければ、おびえあがつて、竿を彼所に投げ捨てて、その者の色や知る。然るに、鳩、これを覚つて、

何国ともなく、飛び去りぬ。その如く、人の恩を請けたらん者は、いかやうにも、その報ひをせばや、と思ふ志を持つべし。

(注) 鳥糞は鳥を捕らえるのに使う、粘り気の強い物質のこと。



（為永春水作・歌川貞重画「絵入教訓近道」より）
所蔵・写真提供 青山学院大学図書館

資料1

読み原稿A

ありが浮いたり沈んだりしているのを、木の上にいたはとが見つけました。
「ありがとうございます、これにつかまれ！」

読み原稿B

ありは、さっきの恩を返そうと思って、その男の足にしっかりとかみつきました。
「いつ、いたたっ！」
男はびっくりして、さおを投げ捨てましたが、ありが恩返しをしたなんて、知るはずありません。

●文章の読解と発表、話し合い、意見文の作成など、さまざまな要素を合わせて出題し、国語の知識を総合的に活用する力を見る傾向がある。

(1) 線「送らう」を現代かなづかいに直し、全てひらがなで書きなさい。

(2) 文章中で、教訓として記述されている一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

Blank box for answer (2)

(3) 「伊曾保物語」は「イソップ物語」を翻訳した物語ですが、日本で現存する最古の物語で、「物語の出て来はじめの祖」といわれている作品を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 源氏物語
イ 平家物語
ウ 伊勢物語
エ 竹取物語

Blank box for answer (3)

(4) 資料1は、「伊曾保物語」をもとにして、江戸時代後期に作られた作品の挿絵です。保育体験実習に参加する春香さんはこの挿絵を見て、「伊曾保物語」の文章をグループで紙芝居にすることを思いつき、実習で活用しようと考えました。次は、春香さんのグループが作成している紙芝居のうち、二つの場面についての読み原稿A・Bと、それに対する春香さんと拓郎さんの対話の一部です。これらを読んで、後の各問いに答えなさい。

対話の一部

春香さん この紙芝居の中で、この二つの場面は大事だと思うんだけど、どうかしら。
拓郎さん 僕もそう思うよ。相手に対する思いやりが行動に表れている場面だからね。
春香さん 鳩に助けられた蟻が鳩を助けるという、これは恩返しの話よね。
拓郎さん そうだね。人に親切にすると、結局は自分にプラスになって返ってくるんだよ。
春香さん そう言えば、この前授業で「情けは人のためならず」のことわざを習ったわね。
拓郎さん 本当だね。でも、僕は、ずっとそのことわざの意味を勘違いしていたんだ。人に情けをかけるのは、その人のためにはならないって意味だと思っていたんだよ。
春香さん 私もそうよ。結局は自分のためになるという意味だったなんて、先生が言うまで知らなかったもの。

1 読み原稿Aの [] にはまる文を、三十五字以上四十字以内で書きなさい。ただし、本文を踏まえて、鳩の心情、具体的な行動とその目的を説明した文にすること。

Grid for writing answer 1

問題が次ページに続きます。

